

7 特別支援教育の教育課程編成

【ポイント1】

特別支援教育の教育課程編成手順は次のとおりです。

- 1 教育課程編成に対する基本方針を明確にする。
- 2 教育課程編成のための、事前研究や実態把握をする。
- 3 学級の教育目標を設定する。
- 4 指導内容を明確にし組織する。
- 5 授業時数を配当する。
- 6 時間割を作成する。

※ 以下は、学校経営案に掲載する教育課程編成の具体例です。

学級名 ○○○○… (○○…)

学級名は、特別支援学級の正式名称で記述し、必要ならば()でクラス名称を記述します。

- 1 児童(生徒)数
○○○○○…
- 2 特別支援学級の経営方針
○○○○○…
- 3 教育課程の概要
 - (1) 教育課程の編成方針
○○○○○…
 - (2) 使用教科書
○○○○○…
 - (3) 教育課程編成表及び時間割表
○○○○○…

例：知的障がい特別支援学級の場合

【ポイント2】

各教科の内容等がわかるよう、教育課程編成表には、次のように記述します。
(知) …知的障がい特別支援学校の教育課程
(○年) …当該学年より下学年の教育課程で代替
また、交流学級で授業を受ける教科等は、時間割表に「教科」で記述します。

教育課程編成表

		2年A児	6年B児
教科別の指導	国語	210(知)	175(知)
	社会		
	算数	140(知)	175(1年)
	理科		
	生活	70(知)	35(知)
	音楽	70	50(知)
	図画工作	70	50(知)
	家庭		55
	体育	105	90(知)
	道徳	0	35
領域別の指導	特別活動	35	35
	自立活動	35	35
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	105	70
	生活単元学習	70	70
外国語活動(外国語)			70
総合的な学習の時間			70
総授業時数		910	1015

時間割表

2年 A児

	月	火	水	木	金
1	日生	国語	日生	算数	日生
2	音楽	図工	国語	国語	国語
3	算数	図工	生活	自立	算数
4	国語	体育	算数	生活	学活
5	国語	生単	体育	体育	音楽
6		生単			

6年 B児

	月	火	水	木	金
1	日生	国語	国語	算数	日生
2	生活	自立	外国語	国語	国語
3	国語	算数	図工	道徳	算数
4	算数	音楽	図/音	家庭	体/家
5	体育	生単	算数	体育	総合
6	外国語	生単		学活	総合

【ポイント3】

生活単元学習等の「教科を合わせた指導」は、知的障がい特別支援学校の学習指導要領の各教科で教育課程を編成した場合のみ実施できるということに留意する必要があります。

具体的に言うと、例示の小学校2年生A児の教育課程の場合、国語、算数、生活は、知的障がい特別支援学校の各教科で編成しています。したがって、これらの教科は各教科等を合わせた指導として行うことができます。また、国語、算数、生活の授業時数の合計は、標準授業時数の合計を175時間下回っています。その175時間分を日常生活の指導と生活単元学習の時間としています。

例：自閉症・情緒障がい特別支援学級の場合

教育課程編成表

		3年A児	5年B児
教科別の指導	国語	210	140(2年)
	社会	70	100
	算数	140	175(3年)
	理科	90	105
	生活		
	音楽	60	50
	図画工作	60	50
	家庭		60
	体育	105	90
	道徳	35	35
領域別の指導	特別活動	35	35
	自立活動	70	35
外国語活動(外国語)		35	70
総合的な学習の時間		70	70
総授業時数		980	1015

時間割表

3年 A児

	月	火	水	木	金
1	国語	国語	算数	算数	道徳
2	学活	体育	国語	国語	国語
3	音楽	社会	音/理	社会	算数
4	自立	算数	体育	理科	体育
5	理科	総合	国語	図工	自立
6		総合		図/音	外国語

5年 B児

	月	火	水	木	金
1	自立	国語	算数	社会	算数
2	国語	道徳	体育	算数	理科
3	算数	音楽	理科	国語	外国語
4	体育	算数	国語	家庭	社会
5	理科	図工	社会	体/音	総合
6	外国語	図/家		学活	総合

【ポイント4】

小(中)学校学習指導要領では、特別支援学級における教育課程については、「自立活動を取り入れること。」となっています。

したがって、いずれの学級においても自立活動を教育課程に位置付け、障がいによる学習上又は生活上の困難を改善・克服するための指導を行うことが必要です。

例示の小学校3年生A児の教育課程の場合、国語と算数の授業時数の合計が標準授業時数の合計を70時間下回っており、その70時間分を自立活動の時間としています。いずれの教科の授業時数を減じるかについては、その理由と減じる内容を補おうとする見通しが必要です。

4 その他

○○○○○…

その他に、特記しておくべき事項があれば記述します。

※ 本教育課程編成の具体例は、「特別支援学級担任及び通級による指導担当教員のためのハンドブック(平成29年3月熊本県教育委員会)」を参考にして作成しています。

各学校においても、是非、ハンドブックを参考にして作成願います。